




園長	次長	係長	主任
			

## 令和7年度 第1回 DSうずらはし運営推進会議 会議録

( **定例** ) ・ 臨時 )

令和7年 7月 11日(金曜日) 13:30~14:30		司会	記録
特養うずらはし本館 あじさい~ぼたん間廊下		小野	小野
【出席者】 雲村委員 山崎委員 泉委員 木村委員 外石委員 新村委員 轡田委員 佐藤委員 田村委員 立川委員 事務局:3人 計 13人		【欠席者】	
議 題	協 議 内 容 ・ 結 果		
1)あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お忙しいなか、お集まり頂き、ありがとうございます。</li> <li>・ふなおかの防災訓練の日と同日に皆さんからお集まり頂き、大変恐縮しております。</li> <li>・改めて、園長の佐藤でございます。今年度もよろしくお願ひ致します。</li> <li>・令和7年度1回目の運営推進会議となります。</li> <li>・五泉市高齢福祉課から田村さん、また五泉地域包括支援センターから立川さんから委員としてご協力を頂いたところでございます。どうぞよろしくお願ひ致します。</li> <li>・さて運営推進会議でございます。資料をはぐるとこの会の目的が記載されておりますが・・・</li> <li>・うずらはしの事業の内容を、見て、聞いて、意見を頂き、透明性のある/開かれた施設運営を図るために、皆様からご協力いただくことが、この会の目的となります。</li> <li>・忌憚のないご意見やご質問を頂戴できればありがたいです。</li> <li>・この橋田地域との歩みを共にしながら、うずらはしの運営を図っていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひ致します。</li> </ul>		
2)委員紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名簿に沿って自己紹介</li> <li>&lt;新役員&gt;</li> <li>・五泉市高齢福祉課:田村委員</li> <li>・五泉地域包括支援センター:立川委員</li> </ul>		

議 題	協 議 内 容 ・ 結 果
3) 事業報告/事業計画 について	<p>佐藤園長より報告            令和6年度 うずらはしの事業報告となります。</p> <p>●特別養護老人ホーム事業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度は年間を通し、コロナ/ヒゼンダニという疥癬感染症のクラスターが相次ぎ、感染対応に追われた1年でありました。コロナはなくなったわけではありませんし、福祉施設ですので、引き続き感染予防対応の継続/向上に取り組んでいく必要があると考えております。</li> <li>・令和6年度は人員が揃わない中で事業運営をまいりました。人員不足の状況が続いていましたが、ケアの質は担保できたとおもっております。</li> <li>・人手が足りない状況だからこそ、業務改善/効率化を図る必要がありました。実施への推進力が弱く、足踏み状態でした。今年度は生産性向上に力を入れ取り組む必要があると考えております。</li> <li>・人材育成につきましては、高卒採用者が3年を経過し、国家資格取得まで導くことができました。</li> </ul> <p>●認知症対応型通所介護事業となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業転換した初年度ではありましたが、稼働/サービス内容ともに順調に経過いたしました。稼働状況につきましては、次のページの利用状況をご覧ください。令和6年度は1日平均10.89人、稼働率90.7%という結果となりました。</li> </ul> <p>●在宅介護支援センター事業 五泉市の委託事業となります</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お茶の間サロンや地域安心見守り訓練等により、認知症に関する正しい知識の普及啓発に努めました。また地域の座談会や協議体に参加し地域づくりにも取り組んでまいりました。</li> <li>・各所、関係機関とも連携し、地域の高齢者の実態把握を行い、心身機能の低下予防にも努めてまいりました。</li> </ul> <p>●居宅介護支援事業 ケアマネジャーの事業となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護認定を受けた方へのケアマネジメントを行う事業であります。内部研修や事例検討を重ね、アセスメントやプランニング能力の向上につとめてきました。</li> </ul> <p>●地域交流・防災としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の地域合同防災訓練は感染対応中ということもあり、職員のみで実施いたします。改めて地域住民からの協力の必要性を感じたところであります。</li> </ul> <p>●別刷りの資料 令和6年度事業報告書について説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特養の入居者状況 平均年齢:87.8歳/平均介護度:4.3/平均入居期間:3年4ヶ月 入退所:17件 (内訳) 看取り退所:12件/入院退所:2件/その他:3件</li> <li>その他:3件については、急変により搬送先で亡くなり退所された件数。</li> <li>・デイサービスにつきましては、先ほどご説明したとおり。</li> <li>・防災につきましては、毎月の避難訓練とは別に災害等による停電を想定した非常食提供訓練を実施したところであります。実際設備の修繕があり、終日電気/断水の状況での訓練を実施しました。</li> </ul>

議 題	協 議 内 容 ・ 結 果
～続き	<p>次に令和7年度 うずらはしの事業計画となります。</p> <p>&lt;基本方針&gt;は3本柱となります</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1つめ:ゼロコロナからポストコロナへの動きを促進する内容となります。</li> <li>・「新型コロナウイルス等の感染症対策においては、培った経験と必要な対策を講じながら、コロナ前の日常生活に戻すための取り組みを力強く進める」と記載致しました。</li> <li>・今まで培ってきた知識と経験を活かし、必要な対策を講じながら、避けるものから効率的に対応をするものへシフトし、コロナ前の活気ある、潤いのある生活に戻すための取り組みを力強くすすめるものであります。</li> <li>・半面、入居者の生活へ目を向けてみると、コロナ対策は、我慢と委縮した生活を強いることとなった面は否めません。</li> <li>・施設内で感染症が発生した際には、効率よく、また負担の少ない対応をすることで、迅速に、コンパクトに収束させる体制構築を目指します。</li> </ul> <p>・基本方針の2点目。「作業でなく関わり」。特養もデイも「作業はあるがサービスなし」とならぬよう、うずらはしで行わるケアの基本的な考え方を示すことで、ケア内容の共有化を図るものです。</p> <p>作業をするとなんとなく仕事をした感じを得られやすいものですが、作業ではなく、入居者/利用者への関わりが本来の私たちの仕事であることを改めて職場全体で共有する内容であります。</p> <p>・基本方針の3点目。いきいきとした職場づくりとなります。職員みんなで取り組んでいる「やさしく・つよく・おもしろく」の行動指針となります。優しさの思考と、実現するつよさ、働き甲斐となるおもしろさ、この行動指針を大切に、楽しさと面白さを共感しあえる職場環境を目指すものであります。今年度は専門職が集うチームとして実現する「つよさ」と、コロナ前の生活に戻す「おもしろさ」を重点的に取り組んでいるところであります。</p> <p>以下、各部署における重点項目となり、資料をご参照して頂ければと思います。</p> <p>以上が事業方針となります。</p>
4) デイサービス活動報告	<p>●池田主任より報告 ※7月1日現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の内訳(35人) <ul style="list-style-type: none"> <li>男性:13人 女性:22人</li> </ul> </li> <li>・介護度の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>介護1:15人</li> <li>介護2:12人</li> <li>介護3:2人</li> <li>介護4:4人</li> <li>介護5:2人 ※平均介護度:2.0</li> </ul> </li> <li>・利用日数の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>週1回:5人</li> <li>週2回:14人</li> <li>週3回:14人</li> <li>週4~5回:2人</li> </ul> </li> </ul>

議 題	協 議 内 容 ・ 結 果
～続き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の自立度 自立:4人 Ⅰ:4人 Ⅱa:4人 Ⅱb:10人 Ⅲa:8人 Ⅲb:2人 Ⅳ:3人</li> <li>・長谷川式スケール「点数」の状況 4月利用登録者34名のうち29名を評価した。 前回より「認知症の疑いあり」が増えた状況となった。</li> <li>・長谷川式スケール「機能」の状況 言葉の即時記憶は比較的保たれているが、近時記憶/遅延再生/現実見当識の衰えが多い</li> <li>・活動状況 資料のとおり</li> </ul>
5) 事故・苦情相談の現況 報告	<p>池田主任より報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●令和6年度 事故:14件 ひやりはっと:12件 苦情相談:0件</li> <li>●令和7年度(4月～6月) 事故:6件 ひやりはっと:0件 苦情相談:0件</li> </ul>
令和7年度運営推進会議 開催予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回会議:7月</li> <li>・第2回会議:12月予定</li> <li>・地域合同防災訓練:9月上旬(日中)予定</li> </ul>
6) その他(意見交換)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中山神社大祭:8/24(日) ども神輿なし</li> <li>・法人内外国人労働者の受入開始。うずらはしも近い将来受入となる。外国人寮が必要となるが、橋田地域の空き家の状況 →空き家多くあり</li> <li>・利用者/入居者の感染症予防対策を引き続き実施していただきたい。 また、熱中症予防にも努めていただきたい。</li> </ul>
	以上

令和7年7月11日

令和7年度 第1回

デイサービスセンターうずらはし 運営推進会議 次第

- 1) あいさつ
- 2) 委員紹介
- 3) 事業報告・事業計画について
- 4) デイサービスの活動計画報告
- 5) 事故・苦情相談の現況報告
- 6) その他(意見交換)

○ 令和7年度 うずらはし運営推進会議委員 名簿 (敬称省略)

	氏 名	所 属 等
1	雲村 守	橋田町内会会長
2	木村 武	門前町内会会長
3	山崎 克衛	橋田地区民生委員
4	外石 基	地域住民代表
5	轡田 直樹	地域住民代表
6	泉 光夫	地域住民代表
7	佐藤 和孝	橋田駐在所
8	新村 恵子	利用者身元引受人
9	田村 美咲	五泉市高齢福祉課
10	立川 純気	五泉地域包括支援センター

○ 事務局 (デイサービスセンターうずらはし)

	氏 名	役 職
1	佐藤 茂	うずらはし 園 長
2	小野 桂子	うずらはし 次 長
3	藤塚 千里	うずらはし 係 長
4	池田 光	うずらはし 主 任

○ 社会福祉法人中東福祉会地域密着型認知症対応型デイサービスセンター  
うずらはし運営推進会議設置要綱

(事業の目的)

第1条 この要綱は、地域密着型認知症対応型デイサービスセンターうずらはし運営推進会議（以下「運営推進会議」という）を設置し、地域密着型認知症対応型デイサービスセンターうずらはし事業計画に基づき、適切な運営、公正中立性の確保、その他施設の円滑かつ適正な運営を図ることを目的とする。

(構成)

第2条 運営推進会議の委員は10人以内で構成し、以下に掲げる者の中から理事長が委嘱する。

- ・ 利用者もしくは利用者の身元引受人の代表者
  - ・ 橋田地区住民の代表者
  - ・ 五泉市高齢福祉課職員
  - ・ 福祉関係者
  - ・ 地域密着型サービスについて知見を有する者
- 2 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。ただし、委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第3条 運営推進会議は、概ね1年に2回以上うずらはし管理者が招集する。

2 運営推進会議は、委員の過半数が出席しなければ開催することができない。

(会務)

第4条 運営推進会議の会務は以下の内容等の報告を受けて、必要な調査等を行い、理事長等に助言、要望及び評価を行う。

- (1) 利用申込みに関すること
- (2) 施設サービスの内容に関すること
- (3) 利用料その他の費用に関すること
- (4) 非常災害時に関すること
- (5) 衛生管理に関すること
- (6) 苦情等への対応に関すること
- (7) 事故発生状況に関すること
- (8) その他必要な事項に関すること

(関係者の出席)

第5条 運営推進会議は、会議の議事に関する者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(事務局)

第6条 運営推進会議の事務局は、デイサービスセンターうずらはし内に置く。

(委任)

第7条 この要綱の定めるもののほか、必要な事項は理事長が別に定める。

この要綱は、平成28年 4月 1日から施行する。

附 則

○ 運営推進会議とは・・・

地域密着型サービス事業所は、地域と連携し、地域に密着した運営が特徴です。

そこで、国の基準では「運営推進会議の設置」が義務付けられました。

【(2006年3月14日厚生労働省令第94号「指定地域密着型サービス事業の人員、設備及び運営に関する基準第85条(地域との連携)】

○ 運営推進会議の目的

地域密着型事業者は、地域と連携し、地域に密着した運営が求められています。

運営推進会議では、地域に開かれたサービスとして質の確保・向上を図っていくことを後押しします。

認知症対応型通所介護では、概ね1年間に2回以上、開催することとされています。

単に報告や情報交換に留まらず、話し合いを通して会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービスの向上に具体的に生かしていくことが大切です。

【平成18年度厚生労働省補助事業資料】

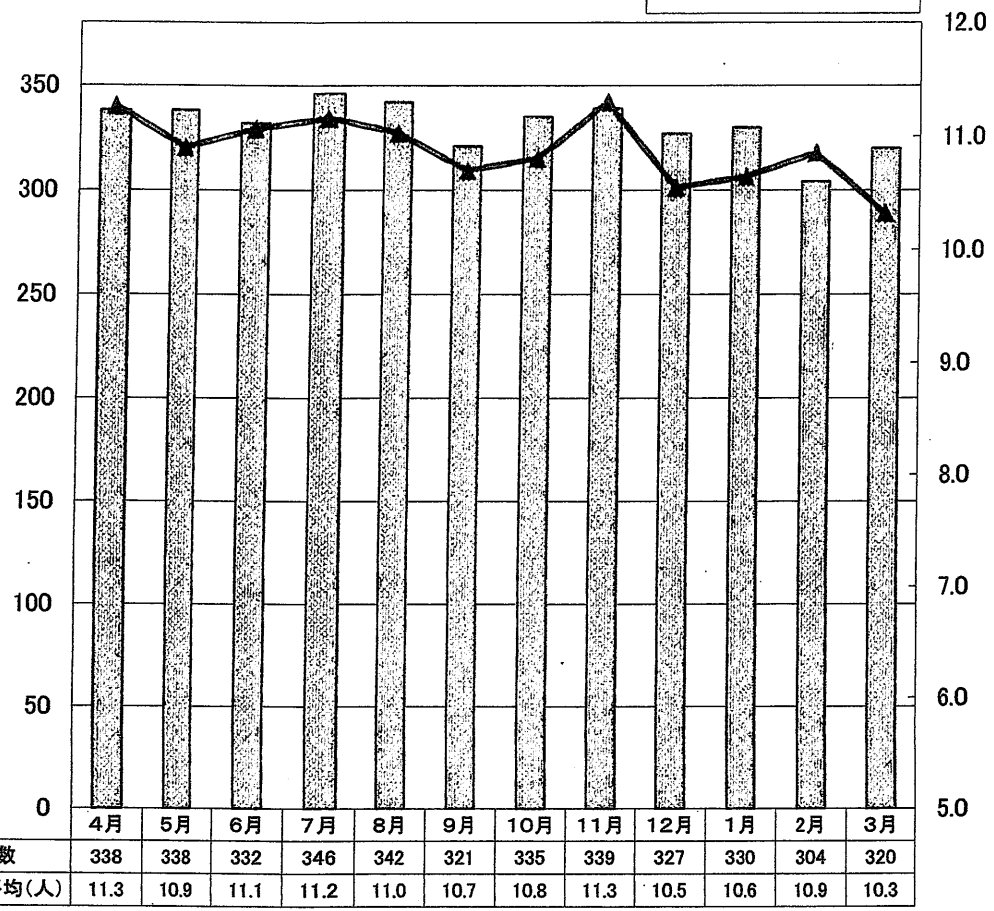
# 令和6年度 事業報告（重点項目・地域交流・防災）

施設名	計 画	報 告	課題等
うずらはし	○重点項目		
	(1) 特別養護老人ホーム事業		
	<p>・ユニットケアの特性を活かし、ゆったりとした日常生活の流れと家庭的な雰囲気の中、本人と家族の想いを最大限に尊重する「想いを汲み・代弁し・実践するケア」に取り組み、ケアの質の向上を図る。介護現場の生産性向上の観点から、現場課題の抽出と分析を行い、業務改善に繋がる検討を行うなかで、働きやすい職場づくりを目指す。また「人を育て、自分も成長する」育成と成長の仕組みを築き、人材育成の体制を強化し、組織の成長に取り組む。</p>	<p>・年間を通じ、新型コロナウイルス/疥癬のクラスターが相次ぎ、感染対応に追われた1年であった。</p> <p>・人員不足の状況が続いたが、ケアの質を担保することができた。</p> <p>・業務改善/効率化を図る必要があったが、実施への推進力が弱く、足踏み状態であった。</p> <p>・高卒採用者が3年を経過し、国家資格取得まで導くことができた。その他職員においても多数の資格取得者を輩出した。</p>	<p>・感染予防対応の継続/向上</p> <p>・生産性向上の推進</p>
	(2) 認知症対応型通所介護事業		
	<p>・身体機能はもちろんのこと、定期的な認知症スケールを用いて、科学的根拠に基づいた認知症予防、周辺症状への対応等、認知症に特化したメニューを展開し、在宅生活の継続を支援する。</p>	<p>・事業転換した初年度であったが、稼働/サービス内容ともに順調に経過した。</p> <p>・1日の流れ/サービス内容は固まってきているが、科学的根拠に基づいた認知症対応や周辺症状を緩和する対応を深める必要がある。</p>	<p>・安定的な利用者の確保</p>
	(3) 在宅介護支援センター事業		
	<p>・地域包括支援センターのランチ機能として、行政・民生委員、居宅介護支援事業所等と連携し、地域の総合窓口としての役割を果たす。また地域住民の自助・共助のための支援の仕組み作り（地域作り推進事業）と総合的な介護予防事業をさらに推進する。</p>	<p>・お茶の間サロンや地域安心見守り訓練等により、認知症に関する正しい知識の普及啓発に努めた。</p> <p>・地域座談会や協議体に参加し、地域づくりに取り組んだ。</p> <p>・関係機関と連携し、地域の高齢者の実態把握を行い、心身機能の低下予防に努めた。</p> <p>・介護予防事業については、五泉市及び法人内の専門職等と協力して運営ができ、参加者の身体状況が概ね改善するなど、効果が得られた。</p>	
(4) 居宅介護支援事業			
<p>・専門的な知識とアセスメント、プランニング能力の向上に努め、利用者本位の自立支援型ケアマネジメントを推進する。介護サービス事業所との連携による、きめ細やかなサービスの提供を行い、地域、関係機関、専門職等とのネットワークによる地域ケアを推進するとともに、地域包括ケアシステム構築の中心的役割を果たす。</p>	<p>・内部研修や事例検討を重ねアセスメント・プランニング能力の向上に努めた。</p> <p>・6月から退職により2人体制へ減員となった。</p> <p>・感染症罹患や忌引き等で1人で全ケースをマネジメントすることが複数回あり、リスク管理に課題が残った。</p>	<p>・リスク管理</p>	
○地域交流・防災			
<p>・運営推進委員との積極的な情報交換と連携、協力体制の確認を行い、地域との結びつきを強化する。業務継続計画（BCP）に基づいた研修と訓練を継続し、より実効性の高い計画に見直し、早期対応と安定したサービスが提供できる体制を構築する。</p>	<p>・地域合同防災訓練は、感染状況に鑑み、職員のみでの実施となった。改めて地域住民からの協力の必要性について認識を深めた。</p> <p>・避難訓練や災害BCP訓練に加え、停電/断水を想定した非常食提供訓練も実施した。</p>	<p>・各種計画の見直し</p>	

### 令和6年度 うずらはしデイサービス利用状況

<目標値>  
10.05人/日  
83.8%  
実:40人

06延べ利用者数  
06年度 1日平均(人)



### 月別利用状況

令和6年度													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	令和6年度
介護保険利用者	337	337	332	344	342	321	335	339	327	330	304	320	3,968
五泉市単独及び身体障害者	1	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	4
合計	338	338	332	346	342	321	335	339	327	330	304	320	3,972
1日当り	11.27	10.90	11.07	11.16	11.03	10.70	10.81	11.30	10.55	10.65	10.86	10.32	10.89
利用定員	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	年間平均稼働率%
稼働率%	93.9	90.8	92.3	93.0	91.9	89.2	90.1	94.2	87.9	88.8	90.5	86.0	90.7
令和6年度													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間平均
実人数	37	36	36	37	35	35	36	37	35	33	33	34	35.3
平均介護度	1.92	1.81	1.78	1.76	1.77	1.77	1.81	1.89	2.03	2.09	2.03	1.94	1.88

### <参考:稼働の推移>

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
全体	90.1% 37.8人	86.9% 36.5人	86.6% 36.4人	78.4% 32.9人	78.1% 32.8人	74.0% 31.1人	49.2% 20.6人
遍所介護	92%	90%	86%	82%	82%	75%	35%
認知症対応型	85%	79%	87%	69%	71%	71%	78%

# 令和7年度 うずらはし事業方針

## 1. 基本方針

利用者が住み慣れた地域や環境のなかで、健康と生きがいを持って安全で安心した生活ができるよう職種間、施設間の連携を強化し、専門職種がチームとなって利用者の意思や権利、尊厳を尊重する。

新型コロナウイルス等の感染症対策においては、培った経験と必要な対策を講じながら、コロナ前の日常生活に戻すための取り組みを力強く進める。

「作業でなく関わり」を基本とした専門性の高い個別ケアを提供するとともに、うずらはしでの生活が「喜ぶと喜ばれるの重なるところ」となるよう、優しさの思考と実現する力強さ、そして楽しさと面白さを共感しあえる職場環境を目指す。

## 2. 重点項目

### (1) 特別養護老人ホーム事業

ユニットケアの特性を活かし、ゆったりとした日常生活の流れと家庭的な雰囲気の中、本人と家族の想いを最大限に尊重する「想いを汲み・代弁し・実践するケア」に取り組み、ケアの質の向上を図る。

介護現場の生産性向上の観点から、現場課題の抽出と分析を行い、業務改善に繋がる検討を行うなかで、働きやすい職場づくりを目指す。

また「人を育て、自分も成長する」育成と成長の仕組みを築き、人材育成の体制を強化し、組織の成長に取り組む。

### (2) 認知症対応型通所介護事業

身体機能はもちろんのこと、定期的な認知症スケールを用いて、科学的根拠に基づいた認知症予防、周辺症状への対応等、認知症に特化したメニューを展開し、在宅生活の継続を支援する。

### (3) 在宅介護支援センター事業

地域包括支援センターのプラチ機能として、行政・民生委員、居宅介護支援事業所等と連携し、地域の総合窓口としての役割を果たす。また地域住民の自助・共助のための支援の仕組み作り（地域作り支援事業）と総合的な介護予防事業をさらに推進する。

### (4) 居宅介護支援事業

専門的な知識とアセスメント、プランニング能力の向上に努め、利用者本位の自立支援型ケアマネジメントを推進する。介護サービス事業所との連携による、きめ細やかなサービスの提供を行い、地域、関係機関、専門職等とのネットワークによる地域ケアを推進するとともに、地域包括ケアシステム構築の中心的役割を果たす。

## 3. 地域交流・防災

運営推進委員との積極的な情報交換と連携、協力体制の確認を行い、地域との結びつきを強化する。また業務継続計画（BCP）に基づいた研修と訓練を継続し、より実行性の高い計画へ見直し、早期対応と安定したサービスが提供できる体制を構築する。

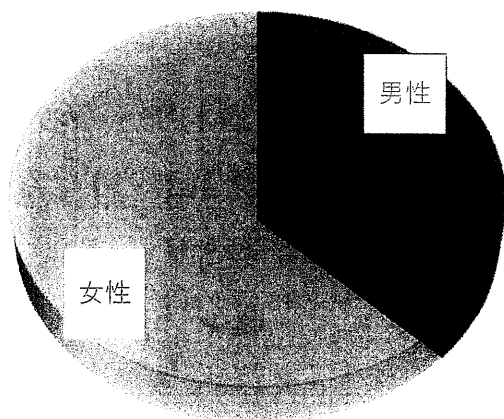
# 令和7年度 活動報告

デイサービスセンターうずらはし

令和7年7月 運営推進会議資料

1

## 利用者の内訳(令和7年7月1日現在)



利用者総数・・・35名

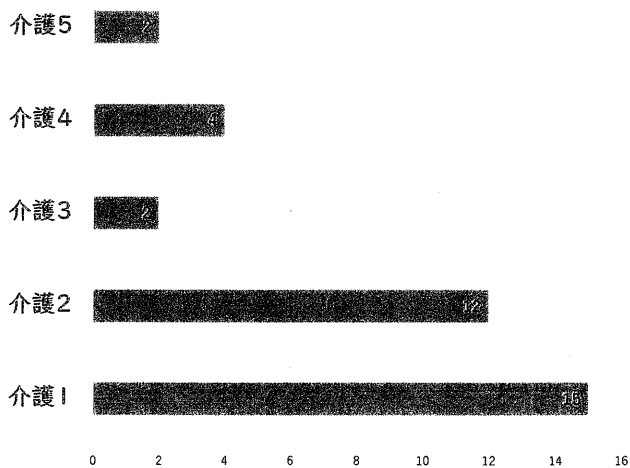
男性：13名

女性：22名

4月からの新規利用者・・・2名

2

## 要介護度の状況(令和7年7月1日現在)



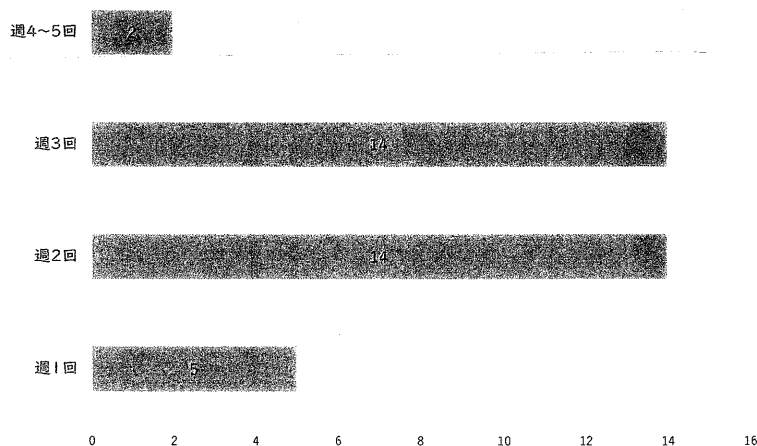
### 要介護度状況

要介護1・・・15名  
 要介護2・・・12名  
 要介護3・・・2名  
 要介護4・・・4名  
 要介護5・・・2名

平均介護度・・・要介護2.0

3

## 利用日数の状況(令和7年7月1日現在)

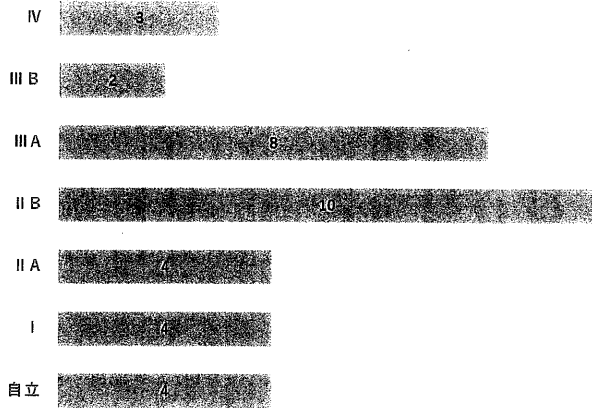


### デイサービス利用日数

週1回・・・5名  
 週2回・・・14名  
 週3回・・・14名  
 週4~5回・・・2名

4

## 認知症自立度の状況



## 認知症自立度の状況

自立 … 4

I … 4

II a … 4

II b … 10

III a … 8

III b … 2

IV … 3

5

## 長谷川式簡易スケール（点数）の状況

長谷川式簡易認知症検査スケール (GDS-15)

項目	内容	スコア
1	記憶力が低下するようになったことが家族に認められる	0-1
2	外出先で名前や住所を忘れてしまったことがある。名前や住所、電話番号、住所がわからなくなることがある。	0-1
3	家族に話しかけると、何を話しているかわからないことがある。	0-1
4	家族から話しかけられると、話しかけられていることに気がつかないことがある。	0-1
5	家族から話しかけられると、話しかけられていることに気がつかないことがある。	0-1
6	家族から話しかけられると、話しかけられていることに気がつかないことがある。	0-1
7	家族から話しかけられると、話しかけられていることに気がつかないことがある。	0-1
8	家族から話しかけられると、話しかけられていることに気がつかないことがある。	0-1
9	家族から話しかけられると、話しかけられていることに気がつかないことがある。	0-1
10	家族から話しかけられると、話しかけられていることに気がつかないことがある。	0-1
11	家族から話しかけられると、話しかけられていることに気がつかないことがある。	0-1
12	家族から話しかけられると、話しかけられていることに気がつかないことがある。	0-1
13	家族から話しかけられると、話しかけられていることに気がつかないことがある。	0-1
14	家族から話しかけられると、話しかけられていることに気がつかないことがある。	0-1
15	家族から話しかけられると、話しかけられていることに気がつかないことがある。	0-1

### ◇スケール点数評価指標

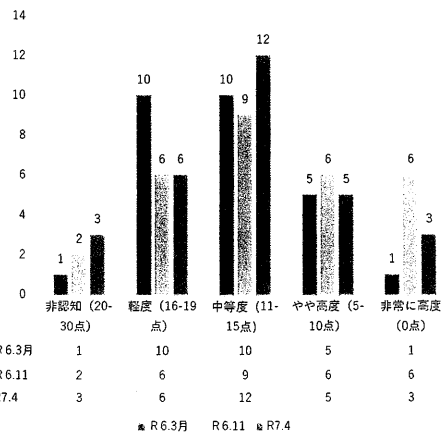
20~30点: 異常なし

16~19点: 認知症の疑いあり

11~15点: 中程度の認知症

5~10点: やや高度の認知症

0~4点: 高度の認知症



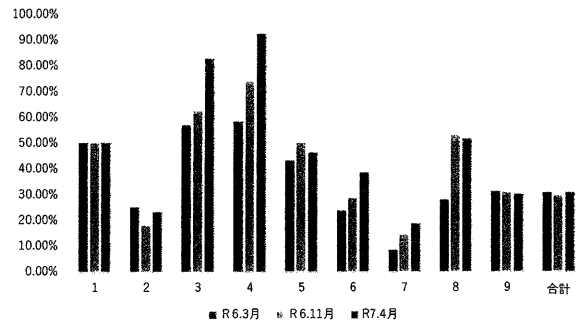
4月利用登録者34名のうち29名（意思疎通が困難な方は未実施）を評価した。前回より「認知症の疑いあり」が増えた状況となった。

6

## 長谷川式簡易スケール（機能）の状況

設問	内容
1～3	<現実（自分・日付・場所）見当識> 低下すると自分の置かれている状況が分からず混乱する。 自分の分かる場所に戻りたくなり、帰宅欲求等現れる場合がある。 進行すると諦めから無表情、無意欲になる。
4	<言葉の即時記憶> 言われた言葉を理解、記憶してすぐに見えるかを見る。 低下すると言葉の理解やコミュニケーションが上手くできなくなる。
5～6	<作業記憶・ワーキングメモリ> 作業や活動手順を覚え、考えて実行する姿を見る。 低下すると計算能力の低下や何かする際の手順が分からなくなる。
7	<近時記憶・遅延再生> 言葉の記憶力、保持力、想起力を見る。 低下すると数十秒～数分前のことは上手く答えられなくなる。 認知症はここから低下していくことが多いと言われてる。
8	<視覚の即時記憶> 眼で見たものに対する記憶と即時に呼び起こせるかを見る。 低下すると目で見ただけを覚えられず、またそのもの自体が何であるのかが分からなくなる。
9	<言葉の流暢性> 「野菜」という単語から想起する力、流暢に言葉を表出できるかを見る。 低下すると言葉が上手くでない、問われた言葉が理解できずに別の受け答えをする等になる。

長谷川式簡易スケール 設問別獲得点数割合



言葉の即時記憶（設問4）は比較的保たれていますが、近時記憶・遅延再生（設問7：※数分前、数十秒前ことを忘れること）、現実（自分・日付・場所）/見当識（設問2 ※年月日、曜日、季節が分からなくなる）の機能が衰えていること評価を実施することで判明しました。

7

## 科学的根拠に基づいた認知症ケアの提供

課題	部位	留意点	活動内容
記憶力	前頭葉	記憶/保持/想起の3段階。繰り返し行うこと。安定した活動の支援、単純動作の繰り返しがポイント	紙すき/和紙染め (ちぎる/扇子畳み)
言語能力	側頭葉	言葉が伝わらなくなると、言葉を話さなくなったり、相手の言葉が理解できなくなる。言葉の理解は簡単な音読を繰り返すことがポイント	学習療法（音読）
判断力 見当識・空間認識	前頭葉 頭頂葉	現実の状況がわかなくなると、判断ができなくなり衣類が季節に合わなかったり、自分の置かれている状況がわからなくなり、徘徊等につながる	家事/季節を感じる活動（畑/花）
計算力	頭頂葉	時計や予算、計算力が低下することで、生活の困難さが生じる	簡単な買い物/学習療法
遂行力	全て	上記を合わせた力	料理/洗濯/掃除

8

紙すき(ハガキ作り)・貼り絵活動(記憶力 脳の部位:前頭葉)



9

学習活動(言語能力 脳の部位:側頭葉)



10

季節を感じる活動(判断力、見当識、空間認識)

脳の部位:前頭葉/頭頂葉



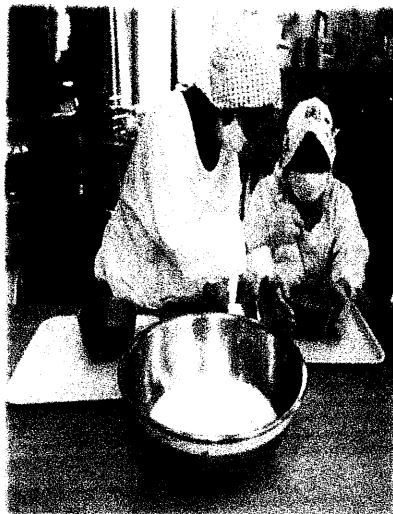
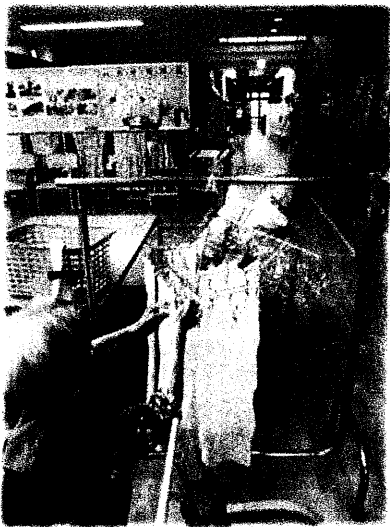
11

簡単な買い物(計算力 脳部位:頭頂葉)



12

料理/洗濯 (遂行力 全ての部位)



13



14

利用者さま一人ひとりの声を聴き、「今日も楽しかった」「気持ちよく1日を過ごせた」と感じ、お一人お一人が主役になれる場所を提供いたします。

本日はありがとうございました。



# 介護事故・ヒヤリハット・車両事故・苦情相談 集計結果

令和6年4月～令和7年3月

月	種別	件数
R6年4月～	事故	14
	ヒヤリハット	12
R7年3月	車両事故	0
	苦情相談	0

令和7年4月～6月

月	種別	件数	状況
4月	事故	1	・午後のレクリエーション時、お手玉投げを行っていた。床にお手玉が落ち、自ら拾おうとして尻もちをついてしまった。 ⇒レクリエーションの最中の事故の為、危険が予測されるレクリエーションは事前に打ち合わせを行い、危険個所には職員の配置を行う。
	ヒヤリハット	0	
	車両事故	0	
	苦情相談	0	
5月	事故	2	・朝のコーヒーを飲んでいる際、右大腿部にコーヒーをこぼした。 ・連絡帳の誤配があった。
	ヒヤリハット	0	
	車両事故	0	⇒返却時は氏名、顔を確認し返却を行う。テーブルと椅子の間隔が開いていた。間隔が開いている場合は声を掛け、テーブルに近づいていただく。
	苦情相談	0	
6月	事故	3	・おはじき移しを行っていた際、おはじきを口の中に入れてしまった。
	ヒヤリハット	0	・入浴時、機械浴の安全ベルトを装着する際、誤ってベルトのバックルに左肘を挟んでしまう。
	車両事故	0	・外出時、階段がある場所で足が絡み転倒した。
	苦情相談	0	→危険を察知し、基本的な対応を徹底していく。

令和7年度 運営推進会議 開催予定

	時 期	開催方法
第1回	7月開催	うずらはしにて
第2回	12月開催	うずらはしにて
その他 (地域合同防災訓練)	9月開催 日中開催	うずらはし (夜間想定訓練)

※ 新型コロナウイルスの状況により、事務局で開催方法を判断させて頂き、事前にご連絡致します。



令和6年度  
事業報告書

社会福祉法人 中東福社会

うずらはし

〒959-1848

新潟県五泉市橋田丙497-2

TEL 0250-48-5577

0250-48-5588 (居宅介護支援)

FAX 0250-48-5576

# 特別養護老人ホームうずらはし

令和7年3月31日現在

## ◇入居者状況（実人数）

年齢	男性	女性	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
40～64歳	0	0	0	0	0	0	0	0
65～69歳	1	1	0	0	0	2	0	2
70～74歳	2	1	0	0	0	0	3	3
75～79歳	1	4	0	0	0	2	3	5
80～84歳	2	9	0	0	2	5	4	11
85～89歳	1	8	0	0	0	5	4	9
90歳以上	4	26	0	0	2	18	10	30
合計	11	49	0	0	4	32	24	60

※ 平均年齢・・・ 87.8 ※ 平均介護度・・・ 4.3

※ 平均入居期間・・・ 3年4か月

## ◇入院期間（延べ人数）

	10日以内	～20日	～30日	～40日	～50日	～60日	～3ヶ月	合計
男性	1	1	0	1	0	0	0	3
女性	4	2	1	5	1	1	0	14

## ◇看取り・その他退所

看取り	入院退所	移動	その他
12	2	0	3

# デイサービス

## ◇年間利用実績

月	令和6年度												合計(人)
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
延べ利用者数	338	338	332	346	342	321	335	339	327	330	304	320	3,972
1日当り	11.3	10.9	11.1	11.2	11.0	10.7	10.8	11.3	10.6	10.6	10.9	10.3	10.9
稼働率	93.9	90.8	92.3	93.0	91.9	89.2	90.1	94.2	87.9	88.8	90.5	86.0	90.7

# 在宅介護支援センター

## ◇相談援助実績

月	令和6年度												合計	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
実態把握	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420

## ◇介護予防事業実績

	対象地区	参加人数(延べ)
介護予防教室	橋田(四十九)	6人

	実施期間	参加人数(延べ)
通所サービスC	1クール目: 4/17~7/3	85人
	3クール目: 10/8~12/24	58人

	派遣依頼回数	派遣地区
お茶の間サロン	8回	寺沢・橋田・菅沢・山崎・能代・西四ツ屋・荻曾根・今泉

# 居宅介護支援事業

## ◇給付管理実績

	認定調査	予 防	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	介護給付計
4月	6	9	45	24	10	4	0	83
5月	5	9	44	24	11	2	1	82
6月	9	8	30	23	5	2	1	61
7月	2	5	31	21	6	2	1	61
8月	3	6	28	20	6	1	1	56
9月	2	6	28	19	8	1	1	57
10月	0	6	31	18	8	1	1	59
11月	2	6	33	16	7	2	2	60
12月	2	6	31	17	7	3	1	59
1月	0	5	32	17	6	3	1	59
2月	1	6	32	16	6	3	1	58
3月	0	6	34	16	7	2	1	60
合計	32	78	399	231	87	26	12	755

# 研 修

## ◇施設内研修

日付	内 容	講 師	
4/3	新人・異動職員研修	園長・係長・主任	10人
4/22	認知症研修	係長	6人
5/8	相談援助技術研修	係長	4人
6/26	感染症・食中毒研修	看護職員・管理栄養士	54人
7/10	災害BCP研修（居宅支援事業所）	係長	3人
7/16	誤嚥性肺炎予防対応研修	看護主任	29人
7/29	リスクマネジメント・安全運転	主任	46人
8/16	排泄・褥瘡予防研修	看護主任	20人
9/24	災害BCP・感染症BCP研修	係長・看護職員	57人
10/1	新人職員研修	係長	1人
10/22	感染症BCP研修（居宅支援事業所）	係長	3人
10/29	身体拘束・虐待防止研修/認知症研修	係長	50人
11/1	新人職員研修	次長	1人
11/15	感染症BCP研修（デイサービス）	係長	5人
11/26	感染症・食中毒研修	看護職員・管理栄養士	52人
12/1	手洗い研修	看護職員	52人
12/17	身体拘束・虐待防止研修	五泉地域包括支援センター	49人
1/8	災害BCP研修（居宅支援事業所）	係長	3人
1/31	リスクマネジメント・看取り研修	主任・介護支援専門員	38人
2/12	災害BCP・感染症BCP研修	係長・看護職員	13人
2/13	電子記録の効率化研修	(株)ワイズマン	8人
2/21	リスクマネジメント（デイサービス）	介護職員	10人
3/17	電子記録の効率化研修	(株)ワイズマン	7人

## ◇外部研修

派遣件数	派遣人数
35件	85人（延べ）

## 苦情相談状況

内 容（複数回答あり）		特 養 2 件	デ イ 1 件	居 宅 1 件	合 計
苦情相談の原因	説明・情報不足	0	0	1	1
	職員の態度	1	1	1	3
	サービス量の不足	0	0	0	0
	サービスの質の低さ	2	0	0	2
	手続き方法の不明	0	0	0	0
	権利侵害	1	0	0	1
	被害損害	0	0	0	0
	その他	1	0	1	2
相談者の要望	話を聞いて欲しい	1	1	1	3
	教えて欲しい	0	0	0	0
	回答が欲しい	0	0	0	0
	調査して欲しい	0	0	0	0
	改めて欲しい	2	1	1	4
	謝罪して欲しい	0	0	0	0
	提言	0	0	0	0

# 防 災

## ◇ 避難訓練

日付	訓練内容	参加者		
		入居者	職員	計
4/24	夜間 火災想定：特養本館	9人	5人	14人
5/21	夜間 火災想定：特養新館	9人	5人	14人
6/26	夜間 火災想定：特養新館	9人	5人	14人
7/10	日中 地震想定：特養デイ合同	入居者/利用者 21人	職員 17人	計 38人
9/6	夜間 火災想定：地域合同防災訓練	入居者 30人	職員 10人	計 40人
11/6	日中 火災想定：デイサービス	利用者 12人	職員 10人	計 22人
11/28	夜間 火災想定：特養新館	入居者 9人	職員 5人	計 14人
3/13	夜間 火災想定：特養本館	入居者 6人	職員 10人	計 16人

※防災設備/器具の自主点検を毎月実施

## ◇ 消火訓練

日付	参加者
9/6	職員 11人
3/22	職員 10人

## ◇ 消防対象施設/危険物施設 立入検査

日付	結果
9/6	指摘事項なし

## ◇ 非常食提供訓練

日付	参加者	訓練時間	訓練内容
10/22	職員 22人	8:00-17:00	停電想定：終日、停電・断水状況での提供訓練（昼食/夕食）
2/21	職員 11人	11:30-13:00	停電想定：停電状況での提供訓練（昼食）

## ◇ 災害BCP訓練

日付	参加者
9/24	職員 57人
1/8	職員 3人
2/12	職員 13人

## ◇ 感染症BCP訓練

日付	参加者
9/24	職員 57人
10/22	職員 3人
11/15	職員 5人
2/12	職員 13人

